

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	コメント欄 ◆要望、◎感想、◇意見
青梅学・連携教育の推進	地域・家庭から安心され、応援される学校になる。	地域・家庭との連携を強化し、ふるさと青梅を学び、郷土を愛する生徒を育成する。	3年間を通じて「ふるさと青梅（青梅学）の実践する。 地域調査の充実、地域人材・地域教材を活用する。 地域の活動にボランティア等で積極的に参加する。	B 3.1 B	取組初年度であり、学校主導になっていた。また、どんな学習、活動を実践したのか周知も不足していた。	①家庭や地域と共に学習を立案。 ②学習発表会の実施や校内掲示、各種お便り、HP等で活動を紹介する。	◎「青梅学」の調査や学校主導とは云え、生徒が地域のボランティア活動に例年より多く参加し、興味を持って活動しているように思う。 ◆ <b>保護者の不満足・わからないが多い。周知不足</b> との分析通りではないか。 ◆柚子もぎボランティアを新聞で見ました。昨年の梅まつりや吹奏楽部の地域行事への参加も大変良かった。中学生の頑張る姿は地域を明るくする。これからも <b>地域行事に参加してほしい</b> 。そして、 <b>活躍の場を広げると共に地域の歴史や伝統を学んでほしい</b> 。 ◆実践しているすばらしい取り組みを <b>様々な機会に周知してください</b> 。 ◆ <b>将来地域を支えてくれる人材を育てる青梅学・連携教育はととても大切です</b> 。学校の教育活動の一環として行うことですから、むしろ <b>学校主導で長期的・計画的に進めていくことが望ましい</b> と思います。 ◆ <b>地域の特徴</b> （例えば吉川英治、川合玉堂、三田氏、御岳山の信仰、柚木の鎌倉街道、秩父多摩国立公園、澤乃井など）を <b>学ぶ学習活動を工夫してほしい</b> 。（私たちの地域はすごいことをわからせたい。） ◆吉川英治なら学運協の吉村先生がいます。地域には素晴らしい人がたくさんいます。周年行事の際の御岳山の雅楽の演奏は大変良かった。 ◎随分と地域での評価が上がってきた。更に、積極的な活動をお願いしたい。 ◇今後、五小、六小の統合の動きが出てくるかもしれません。そのために小中連携した活動を進め、中1ギャップがでないようにしていきたい。まずは <b>交流学習、教員間の交流が必要</b> です。教員間が仲良くならないと小中連携は難しいです。
学力向上	学習の基礎・基本の習得、課題解決のできる思考力・判断力・表現力の育成。	学習の基礎・基本を確実に身に付け、仲間と共に学習する楽しさを知る。	家庭学習の習慣化に向けて、適切な方法を工夫する。 興味・関心を引き出す教材・教具、協働学習等を工夫する。 タブレットPC、電子黒板等のICT機器を適切に活用する。	B 3 B	ICT活用で授業の工夫を図ったり、学習教材を準備して家庭学習方法を指導してきたが、保護者の期待値には届いていなかった。	小中連携の課題として情報メディアに浸る生活習慣の見直しと合わせて指導を強化する。	◆学習方法を様々な工夫で提供しており、指導の熱意は感じられるが、 <b>家庭学習の習慣化にはまだ努力が必要</b> と思われる。 ◎生徒・保護者と教員との差が一番大きい。家庭での学習場面を見ていない。していないことを自覚しているのでは。 ◆家庭学習の習慣化には保護者も期待しています。 <b>家庭学習の習慣化には各家庭の協力が不可欠</b> です。「家庭学習の習慣化」をテーマに保護者と検討会を開くのも一つの方法であるし、学校と保護者との共通理解の場となるのではないかと思います。 ◆家庭学習の習慣化は永遠の課題である。まずは勉強好きの生徒を育てるために、 <b>楽しい授業、わかる授業の実践をし、魅力ある授業づくり</b> をしたい。そのためにも電子黒板の効果的な活用です。 ◆興味・関心を引き出す教材・教具、協働学習の工夫を可能にするのは「電子黒板の授業」と「協働学習」である。 <b>教員全員が電子黒板を使って授業実践できるようにしたい</b> 。また、班を中心にお互いに <b>教えあう協働学習の実践</b> をしたい。それらが西中の2つの大きな魅力となってほしい。
人権・心の教育の充実	人権教育を柱として、心の教育を推進する。	人権尊重の精神にたち、自他を大切に育てる。自尊感情及び自己肯定感を高める教育活動の充実を図る。	生徒の人権を大切に敬称呼びや丁寧な言葉掛けを行う。 清掃活動や掲示物等を大切に、生活環境を美しく整備する。 特活や総合、部活等を通して達成感や連帯感を高揚させる。 協働学習から互いの考えを認め合い、高め合う指導を行う。	A 4.4 A A	昨年よりも高い評価を得られていることに、今年度の学校の取組が評価されたと判断できる。	いじめ認知件数が多いことを踏まえ、来年度はさらに、特別活動、道徳教育を活かした生徒たちによる思いやりのある温かい学校作り活動を計画する。	◎多様性を講師を招いての講座や学校評価アンケート生徒評価からみても心の教育指導は図られていると思う。 ◎全体的に一番高い評価。 ◆高い評価はすばらしい。しかし、 <b>いじめ認知件数が多いことが課題です</b> ので <b>増々人権教育を推進してほしい</b> 。 ◎いじめ認知件数が多いのは、友人関係や人間関係においてここが傷つきやすく折れやすいタイプの生徒が多いのではないかと考えられる。これまでの人権教育を柱とする心の教育の取り組みに合わせて、 <b>生徒一人ひとりの自立心を高めるとともに、耐える心、乗り越える心を養っていただきたい</b> 。先生方自身が <b>困難に耐えた経験、乗り越えた経験を生徒に伝えていただきたい</b> 。 ◎丁寧な言葉がけの実践が評価されている。気を緩めることなく、いじめには高いアンテナをお願いしたい。 生徒は教室で一日を過ごします。環境の美化、整頓された掲示物のある教室は、自分の部屋のように生徒も落ち着いて過ごせるはずです。 ◎コロナが収束してきたので、 <b>協働学習を積極的に取り入れていきたい</b> 。 <b>友人の意見を聞いて学習し、更に自分の考えを深めていくことが大切</b> である。
オリパラ（体力向上）	オリパラの精神やスポーツ、文化、環境について学び、様々な運動を工夫し体力向上を図る。	オリパラのレガシーを活用し、スポーツに興味・関心をもたせる。	サッカー国際審判員の荒木先輩の講演会等を適切に生かす。 体育的行事や昼休みの校庭利用等を促し運動に親しませる。 体育的行事や部活、オリパラ講演会等を通して社会性を育む。	B 3.5 B	生徒・教員の評価に対して、保護者の回答に課題が見られる。周知することや合同運営する形が不足していると考える。	PTA(家庭)や地域からご意見をいただいたり、各種お便りやHP等でさらに学習活動を発信したりする。	◎運動会・スキー教室などの学校行事や講師を招いての講演会を開いており、生徒たちの体力向上は図られていると思う。ただ、以前からのコロナ感染症等の影響が残念に思う。 ◆時々、メディアで児童生徒の体力が低下していると聞く。 <b>西中学校や校区の小学校の実態はどうだろうか。現状や課題を知りたいと思う</b> 。 ◎実際に体験している生徒の評価が高い。家庭でも話をしているところでは理解されていると思う。 ◆ゲームやパソコンに使う時間が長い中学生にとって、 <b>心のリフレッシュを図る運動を校内生活に意図的に取り入れる必要が高まっている</b> 。親子スポーツ大会なども保護者の関心を高める一助となるかもしれません。 ◆運動会、運動部活動、連合陸上や駅伝大会など、以前から西中は本当に盛んだった。スマホの普及やコロナの影響もあって、全力で体を動かす機会が減っているように思う。 <b>仲間と一緒に全力を出す経験を運動会や部活動、生徒会行事でもいので意図的に教育活動に加えてほしい</b> 。 ◆地域の人材を活かしている。講演の際は、生徒だけでなく、 <b>保護者、地域の希望する人の参加も可</b> としたい。
特別支援教育	特別支援教室の生徒及び通常級の生徒で支援の必要な生徒に特別支援教育の実践をする。	インクルーシブ教育の視点に立った教育活動の推進を図る。	様々な特性をもった生徒たちが互いを尊重し、協力する集団作りを工夫する。 教室や学年フロア等ユニバーサルデザインを意識した環境整備を行う。 特別支援教室やSCをはじめ、各支援員と連携した教育活動を実践する。	A 4.4 A	生徒・保護者・教員全ての回答で高い達成度であった。	個性を認め合い、高め合う西中学校として、今後も教育環境を見直し、教育活動全体で組織的に実践していく。	◎特に評価しているのは、勉強の苦手な生徒の支援として「あゆみ教室」があり、スタディプラネット等の教材を準備していることである。支援員として携わっている方には感謝。ひとりでも取りこぼしのないよう関連機関と連携し教育活動をしている。 ◎生徒、教員共に高い評価。保護者の「わからない」が多い印象。 ◎先生方の方針や指導を一番身近に感じるのは生徒です。その生徒の評価が90%を超えているのは西中生徒の素晴らしさを示しています。引き続き生徒の理解や協力を大切にし、また、保護者や関係機関特別支援教室、SC、支援員等との連携を図りながら自信をもってインクルーシブ教育に取り組んでいただきたいと願っています。 ◆これからは <b>個性尊重の時代</b> です。 <b>ダメダメ教育ではなく、生徒の個性を伸ばしてくれる担任、教科担任であってほしい</b> 。 ◆ <b>配慮を必要とする生徒への共通認識を徹底</b> していきたい。講師、補助教員、サポーターにも徹底していきたい。他校で補助教員の一言で不登校になった例もある。 ◎特別支援教室やSCをはじめ、各支援員と連携した教育活動はこれからもさらに継続してほしい。

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	コメント欄 ◆要望、◎感想、◇意見
進路の実現	キャリア教育の視点に立った進路指導を推進する。	3年間を見通した系統的・計画的な進路指導を実践する。	3年間を見通した計画で、進路指導の充実を図る。  家庭や地域との連携を図り、充実した進路指導を実践する。  小学校から中学校、そして高校へとつながるキャリアパスポートを活用する。	B  B  B	4.7	生徒・教員の評価に対して、保護者の回答に課題が見られた。家庭で生徒と保護者が進路を一緒に考える機会が少ないものと考えられる。  西中学校のキャリア教育の流れを保護者会等の機会に情報発信をしていく。また、家庭と一緒に考える機会を増やす。	◎職場体験は将来の進路を見極める一つの選択となるであろう。 ◎3年生に近づくほど生徒は意識が高まる。三者間での話をし始める。2年生では低い評価なのでは。 ◆生徒に、将来なりたい自己像を描かせ、その将来のために、今、何をすべきか、生徒と先生と保護者が一緒になって考える工夫をしていただきたい。そのきっかけとなる職場体験やボランティア体験の取り組みはキャリア教育の一環として大変有効だと思っています。ぜひ続けてください。さらに失敗や挫折から立ち直り、自己実現を成しえた人による道徳の特別授業も有効です。 ◆取り組み始めたボランティア制度は自己有用感を高め、自立と主体性を高めるキャリア教育に位置づく素晴らしい取り組みだと思う。腐葉土作りや農作業、SDGsへの取り組みもぜひ進めてほしい。地域や小学校と連携した防災教育に目を向け始めたことも素晴らしい。これからも地域との連携を模索し、西中が地域シンボルに、誇りになるといい。 ◆自分の将来を考えさせ、進むべき道を自己決定できるように指導してほしい。 ◆職場体験などで、地元の産業を学ぶ機会があるといいです。林業や農業、畜産業、観光業、山間ながら水産業もある。青梅の特産、名物を生み出そうとしている企業もあると思います。話を聞かせてもらうのもいい学習です。そうした体験から自分たちの住む町と自分自身を理解して、視野を広げながら自己の進路を見いだせるといいです。 ◆保護者と一体になった進路指導が必要である。保護者会など、事あるごとに説明、資料を配布、提供してほしい。 ◆小中連携は今後の大きな課題です。
健康・安全	感染症や自然災害に油断することなく、健康で、安心・安全な学校運営を推進する。	教職員が一丸となって命を守る教育を推進する。	感染症予防対策や日頃の健康教育の充実を図る。  様々な災害を想定した避難訓練や安全指導を充実させる。  外部機関と連携した専門的・実践的な健康・安全教育の推進。	A  A  A	4.7	生徒・保護者・教員全体が概ね高い達成度である。一方、保護者で分からないとの回答もやや多く、情報発信不足と考える。  次年度は、分からないという回答を減らせるように情報発信の方法を工夫する。	◎薬物乱用防止・がん教室など命を守る教育がなされていると思う。感染症対策についても注意喚起が行われている。安全教育は関連機関と連携し指導されている。 ◎コロナが五類になり、対応に対して、それぞれの立ち位置での認識となると、わからないという回答が増える理由なのではないか。 ◎新型コロナ感染の拡大を防ぐ対策を取りながら、いかに教育活動を充実させていくか、工夫努力された4年間であったと思います。教職員・生徒・保護者が相互に理解、連携して、様々な困難を乗り越えてこられたことに敬意を表します。 ◆早め早めの情報提供、予防対策を実践してほしい。 ◆様々な災害を想定し、避難訓練を実施してほしい。 ◆生徒にとって必要な健康、安全教育をさらに実践してほしい。(交通安全、不審者対応、スマホの使い方、薬の使用の仕方、性教育、栄養教育、マナー教育など)
生活指導	学校いじめ防止基本方針を基にした全教職員による組織的な生活指導を推進する。	問題行動を後追いする指導ではなく、未然防止する積極的な生活指導を行う。	決めつけ指導ではなく、生徒に寄り添い判断力を養う指導。  生徒観察を丁寧に、変化に気づき、報連相を大切に作る。  集団生活のマナー違反を見逃さず、職員一丸で判断力を養う指導を実践する。	A  A  A	4.2	生徒・保護者・教員が概ね高い達成度である。保護者で分からないとの回答が多いのは生活指導に関わらない家庭が多いからだと考えられる。  分からないという回答を減らせるように情報発信の方法を工夫する。	◆生徒の誠実さや大らかさが見られ、問題行動の生徒には未然に防ぐ連携が取られていると思う。生徒自らが考えて行動する指導がされていると思う。近所として下校時の生徒のマナーが気になります。 ◎学習と同じで関心がないのか、わかりにくいのか、発信をしても受け取る側にも原因があると思う。 ◎学校の方針が明確であることが高い評価につながっていると思う。 ◆分析には「保護者で分からないとの答えが多いのは生活指導にかかわらない家庭が多いから…」とありますが、生徒の80%以上がわかっているのであれば指導方針はほぼ浸透していると言えます。これからは保護者への情報の周知と合わせて、保護者全体との連携・協力関係づくりを目指してほしいと思っています。保護者にも考えてもらい、理解してもらい、協力をしてもらうことがいじめ防止には特に必要です。 ◎生徒の声を聴いたルール作りなどが評価される。 ◆個々の問題行動に寄り添った指導が必要である。 ◆学校のルールを守れない生徒、集団行動がとれない生徒こそ、丁寧に温かい指導をお願いしたい。ルールを守らないから、学校に登校させないなどと切り捨ててしまう指導はしないでほしい。生徒や保護者とじっくりと話をし納得させる指導をお願いしたい。他校でルール違反で切り捨てられ不登校になっている例もある。
部活動	勝利至上主義に走ることなく、健全な心と体を育む。	部活動を通して、社会性や仲間との絆を育む。	ガイドラインにそって、健全育成の理念と計画で運営する。  生徒が目標を持ち、意欲を高める指導で活動を充実させる。  練習計画や会計報告を整え、保護者と連携した運営を行う。	A  A  A	3.9	生徒・保護者・教員が概ね高い達成度である。保護者で分からないとの回答もやや多く、部活未加入の家庭だと考える。  分からないという回答を減らせるように情報発信の方法を工夫する。	◎吹奏楽部・運動部など、コロナウイルスの影響が残る中で、生徒たちの頑張りが見られた。 ◎部活未加入の家庭だと、発信しても伝わりにくいのではないかと。 ◆西中だよりを読むと、生徒たちが部活動を通して様々な活躍していることを知ることができる。部活動の地域移行が検討されているが、中学校の部活動はそれぞれの学校で行うからこそ意義がある。多くの生徒たちが部活を楽しめるようになることを願う。 ◆地域の人材活用、地域へ学校を提供すること(体育館、グラウンド、特別支援教室の開放等)をさらにお願いしたい。 ◆クリーン会計にするために、会計は保護者をお願いする。 ◇勝利主義の活動ももちろんではあるが、今後、地域のクラブチームと連携した活動、地域の大人たちのチームとの交流など、その活動の楽しみを地域の生徒、大人と共有していくことも必要になってくるのではないかと。